

SigmaSystemCenter 3.0

制限事項対処手順書

第 1 版 2011 年 5 月

1 はじめに

SigmaSystemCenter(以下 SSC)3.0 において、「N+1 リカバリ」機能等を利用した場合に、ESMPRO/ServerManager(以下 ESMPRO/SM)の管理画面(*)の情報が自動的に反映されず、サーバ切り替え後に ESMPRO/SM の管理画面上でサーバ管理情報の更新操作が必要になるケースがあることが判明いたしました。

(*)ESMPRO/SM が監視しているサーバの状態や各種設定を確認する画面

本資料では、それらの制限が発生した際の対処手順について説明します。

導入いただく皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしますが、本資料を参考の上対処いただきますようよろしくお願いいたします。

2 対象読者

以下の条件を満たす運用を行っている場合、本資料の対処が必要となります。

2-1. ESMPRO/SM Ver5 で提供している以下の機能のいずれかを有効にしている場合

- ◇ Universal RAID Utility 管理機能
- ◇ Express Update 管理機能
- ◇ マネージメントコントローラ管理機能

2-2. ESMPRO/SM Ver5 の管理画面で監視対象のコンポーネントをグループ単位で管理している場合

3 運用への影響

2-1 の条件を満たす場合は、SSC の運用には影響はありませんが、ESMPRO/SM Ver5 で提供している Universal RAID Utility 管理機能、Express Update 管理機能、マネージメントコントローラ管理機能に影響があります。

発生条件を満たした環境で「N+1 リカバリ」機能によるサーバ切り替えが起きると、ESMPRO/SM 管理画面上において置換前サーバ(稼働マシン)、および置換先サーバ(予備マシン)の構成情報が正しく表示されず、Universal RAID Utility 管理機能、Express Update 管理機能、マネージメントコントローラ管理機能に関する機能が利用できなくなります。

2-2 の条件を満たす場合はコンポーネントをグループ単位で管理している場合、所属グループが root に変わりますので、所属グループの再設定が必要です。

4 作業が必要となるケース

以下の発生条件を満たした場合、ESMPRO/SM 管理画面にログインし、後述する対処手順を実施する必要があります。

- ESMPRO/SM が通報する「ターゲットアクセス不可」のイベントを契機にポリシーアクション「マシン置換」が実行された時
- SSC の Web コンソールから次のいずれかの操作を行った時
 - 「マシンの置換」の操作を実行
 - 「割り当て解除」の操作後、「リソース割り当て」の操作を実行
 - 「割り当て解除」の操作後、「マスタマシン登録(物理マシン)」の操作を実行
- 次のいずれかのコマンドを実行した時
 - pvmutl replace を実行
 - pvmutl delete/ssc release machine を実行後、
pvmutl add/pvmutl addspecname/ ssc assign machine を実行

5 対処手順

「4 作業が必要になるケース」の発生条件に該当した場合は、以下の手順を実施願います。

- ESMPRO/SM Ver5 の以下の機能のいずれかを有効にしている場合
 - ◇ Universal RAID Utility 管理機能
 - ◇ Express Update 管理機能
 - ◇ マネージメントコントローラ管理機能

マネージメントコントローラ管理機能の利用状況により、対処手順が異なります。

- 1 マネージメントコントローラ管理が無効の場合
ExpressUpdate 管理、Universal RAID Utility 管理が「未登録」の状態になりますので、上記機能の再登録をお願いします。(手順)
- 2 マネージメントコントローラ管理が有効の場合
ESMPRO/SM の管理画面でコンポーネント(サーバアイコン)の削除と再登録をお願いします。(手順)
再登録時に「設定」タブの「接続設定」に表示される以下の情報が必要となります。
詳細は次ページの事前準備を参照ください。

- ESMPRO/SM Ver5 の管理画面で監視対象のコンポーネントをグループ単位で管理している場合
マシンの所属グループが root になります。運用状況にあわせて、所属グループの変更をお願いします。(手順)

6 事前準備

マネージメントコントローラ管理が有効の場合、コンポーネントの削除、再登録作業が必要です。
再登録作業のために、

- ・ ESMPRO/SM の「設定」タブの「接続設定」の情報
- ・ SygmaSystemCenter の[死活監視] タブの情報

が必要となりますので、値を控えておいてください。

< ESMPRO/SM の「設定」タブの「接続設定」の情報 >

< 共通設定 >

- ・ OS IP アドレス

< システム管理機能 >

- ・ SNMP コミュニティ名

< マネージメントコントローラ管理機能 (共通) >

- ・ 認証キー

< マネージメントコントローラ管理機能 (共通) >

- ・ IP アドレス 1
- ・ サブネットマスク 1

項目名	設定値
コンポーネント名	WIN-6 AQ M26 DGAOC
別名	WIN-6 AQ M26 DGAOC
所属グループ	group1
接続形態	LAN
共通設定	
OS IPアドレス	192.168.14.67
システム管理機能	
管理	登録<有効>
SNMPコミュニティ名(取得用)	public
SNMPコミュニティ名(設定用)	
RAIDシステム管理機能	
管理	未登録
ExpressUpdate 機能	
管理	登録<有効>
マネージメントコントローラ管理機能 (共通)	
管理	登録<有効>
認証キー	*****
マネージメントコントローラ管理機能 (LAN)	
IPアドレス1	192.168.14.59
サブネットマスク1	255.255.255.0
<div>編集</div> <div>接続チェック</div>	

< SygmaSystemCenter の[死活監視] タブの情報>

SygmaSystemCenter の「グループプロパティ設定」ウィンドウを表示し、[死活監視] タブの「アラートの抑制」の「リトライ回数」の値を控えておいてください。

「グループプロパティ設定」ウィンドウを表示の手順については、SigmaSystemCenter 3.0 コンフィグレーションガイドの「[死活監視] タブを設定するには」も参照ください。

運用 > DPM-G_Category > DPM-G

グループプロパティ設定

全般 モデル ホスト ソフトウェア ネットワーク設定 LB設定 ホストプロファイル データストア設定 **死活監視** 性能監視

グループで移動するマシンを ESMPRO/SM に登録する場合は、チェックボックスをオンにしてください。
ESMPRO/SM に登録したマシンの死活監視は、ESMPRO で行います。

☒ **ESMPRO/SM に登録する**

ESMPRO/SM にマシンを登録する際、ESMPRO/SM の「サーバ状態監視間隔」、「サーバダウン検出リトライ回数」を指定した値に変更します。
仮想マシン、ESXi は ESMPRO/SM に登録しないため、本設定は無効です。
値を指定しない場合は、ESMPRO/SM の既定値となります。ただし、マシン置換の際は、置換するマシンの設定値を引き継ぎます。

☐ 値を指定する

サーバダウン検出リトライ回数 回

サーバ状態監視間隔 分

死活監視機能を利用する場合は、チェックボックスをオンにしてください。

☐ **死活監視機能を有効にする**

この運用グループで使用する監視方法を設定します。選択した監視全てに成功した場合、正常と判断します。

☐ Ping 監視

☐ Port 監視

監視ポート

ヒント: カンマで区切る事で複数のポートを指定できます。
全ポートに接続できると正常と判断します。

☐ 仮想化基盤監視

ヒント: この設定は Hyper-V、XenServer、KVM に対する仮想化基盤監視を有効/無効にします。

適用 戻る

ExpressUpdate 管理、Universal RAID Utility 管理の再登録手順

以下の手順で ExpressUpdate 管理、Universal RAID Utility 管理を再登録してください。

- (1) 「N+1 リカバリ」機能のマシンの置換処理により ExpressUpdate 管理、Universal RAID Utility 管理が未登録になっているコンポーネントを選択してください。

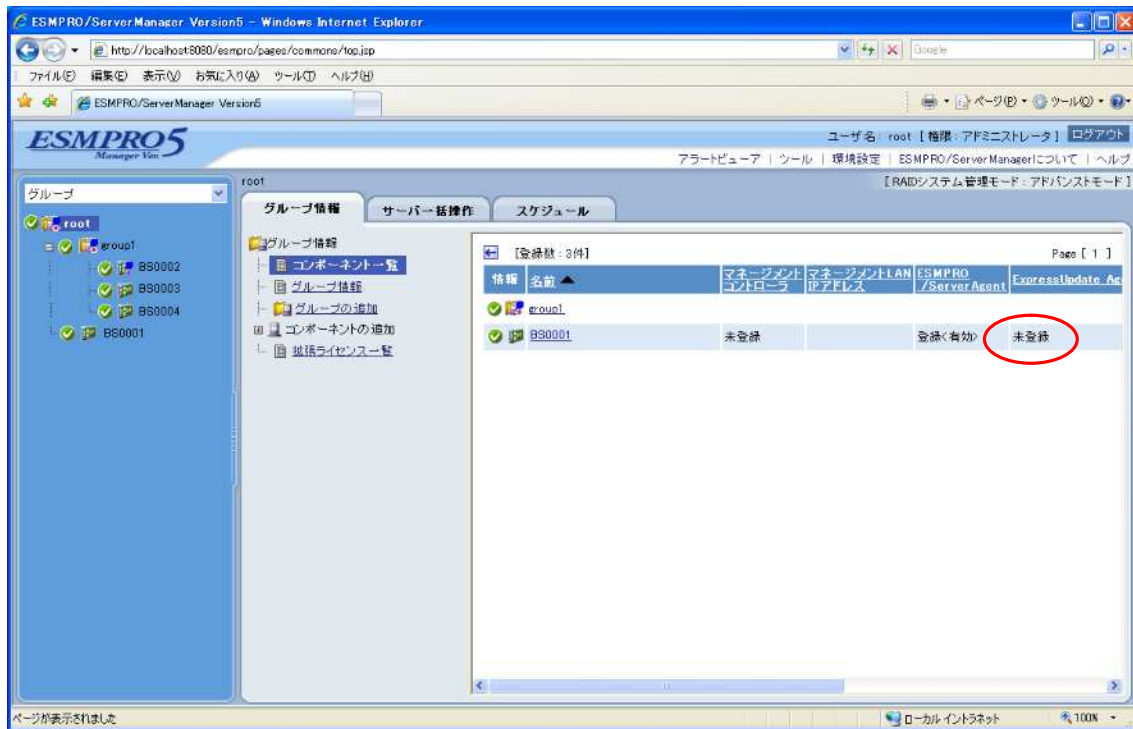


図 1 置換後の登録状態

- (2) 「設定」タブの「接続設定」を選択してください。
- (3) 「編集」ボタンを選択してください。
- (4) 「ExpressUpdate 管理用設定」または「Universal RAID Utility 管理用設定」を「登録」に設定して、「更新」ボタンを選択してください。(図2 登録変更参照。)
- (5) 「接続チェック」ボタンを選択してください。
- (6) 「接続チェック実行結果」に問題のないことを確認してください。

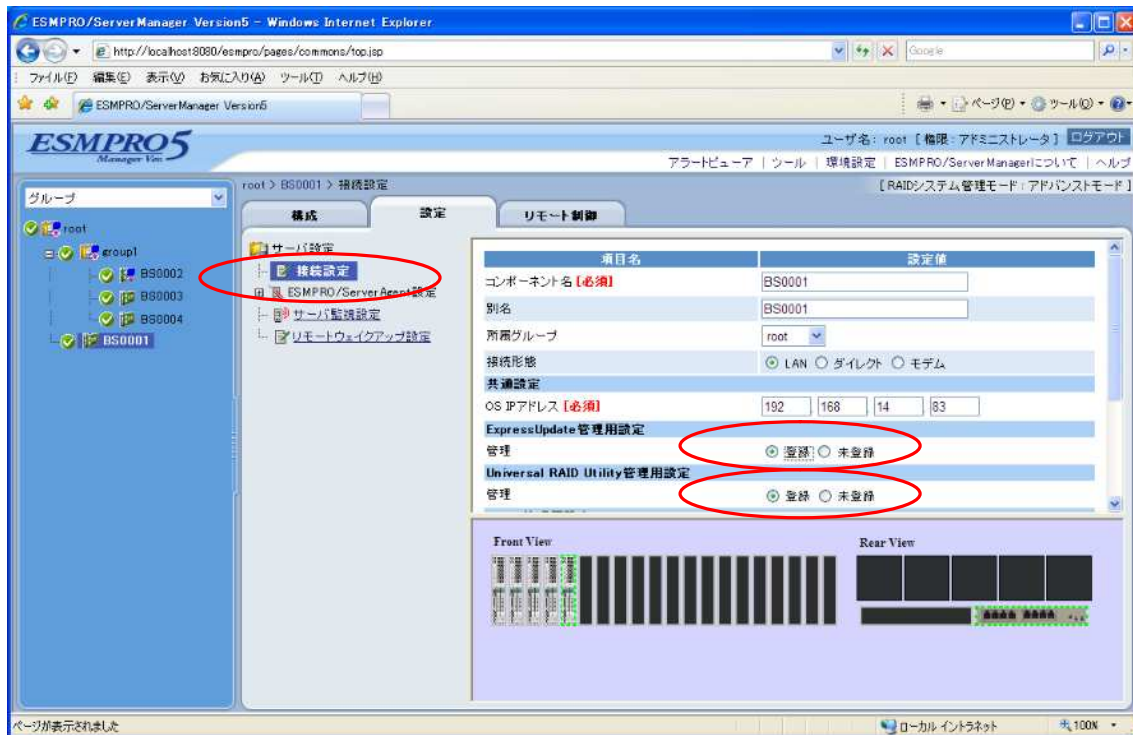


図 2 登録変更

コンポーネントの削除と再登録手順

以下の手順で、コンポーネントを一旦削除し、再登録してください。再登録後、置換後の運用マシンを監視できます。また、登録したコンポーネントの再設定を行ってください。

置換後のコンポーネントはブートコンフィグ置換のあり・なしによって、以下のいずれかの状態になっています。(BS0003 サーバが置換されたサーバです)

➤ ブートコンフィグ置換ありの場合

マネージメントコントローラ管理において通信エラーが発生し、状態アイコンが「？」になります。

(図 3 ブートコンフィグ置換による置換後の状態 参照)

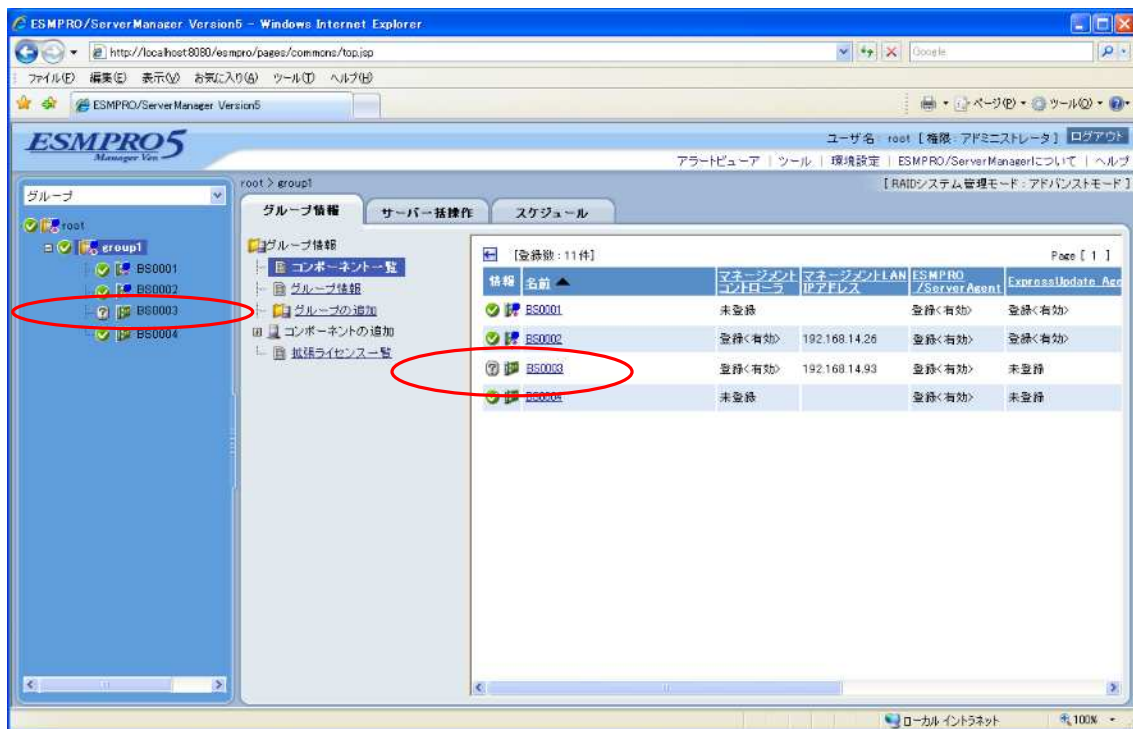


図 3 ブートコンフィグ置換による置換後の状態

➤ ブートコンフィグ置換なしの場合

サーバ置換が発生したコンポーネントの SNMP 管理が未登録の状態になります。



また、OS IP アドレスが 0.0.0.0 の不正コンポーネントが root に登録される場合があります。

(図 4 ブートコンフィグ置換以外の置換方法の場合の置換後の不正コンポーネント参照)

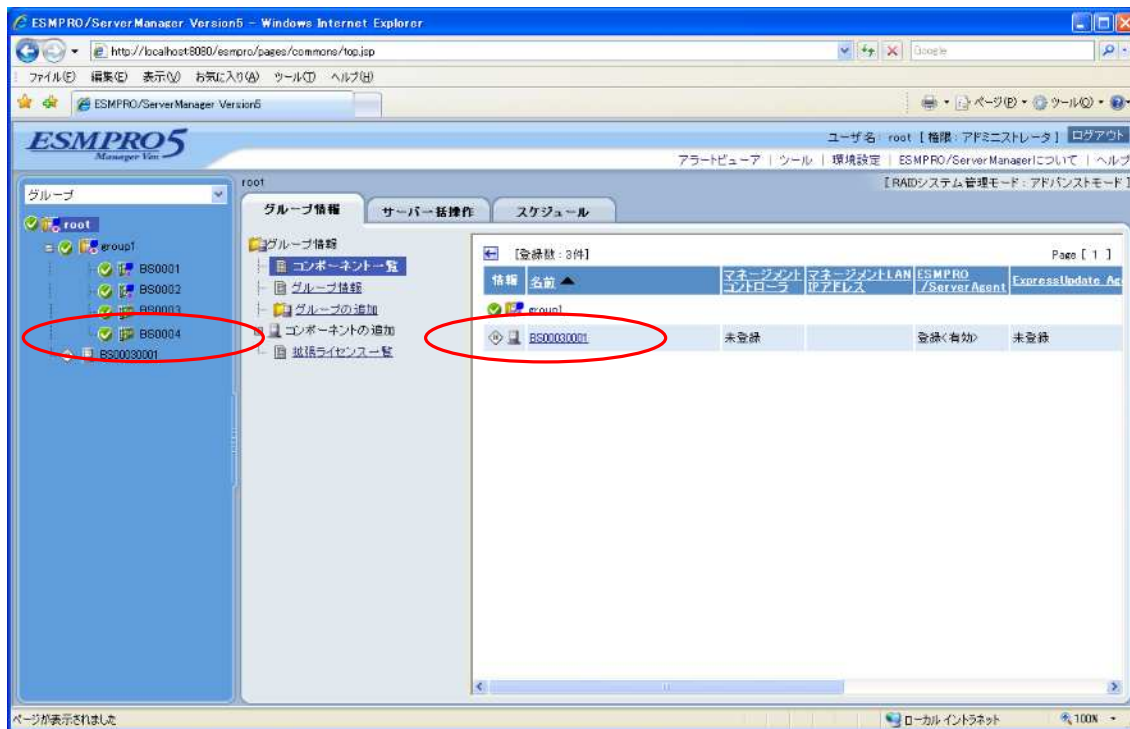


図 4 ブートコンフィグ置換以外の置換方法の場合の置換後の不正コンポーネント

- (1) 置換前のコンポーネントを選択し、「設定」タブの「接続設定」に表示される値を控えておいてください。再登録時に使用します。

詳細手順は「6 事前準備」の手順を参照ください。

- (2) SygmaSystemCenter の「グループプロパティ設定」ウィンドウを表示し、[死活監視] タブの「アラートの抑制」の「リトライ回数」の値を控えておいてください。

再登録時に使用します。

詳細手順は「6 事前準備」の手順を参照ください。

- (3) 所属グループの「グループ情報」タブの「コンポーネント一覧」を選択してください。

- (4) コンポーネントの行の右端に表示されている「削除」ボタンを選択してください。

(図 5 コンポーネント削除 参照。)

ブートコンフィグ置換なしの場合は、置換後に登録された OS IP アドレスが 0.0.0.0 のコンポーネントも削除してください。

(図 4 ブートコンフィグ置換以外の置換方法の場合の置換後の不正コンポーネント参照)

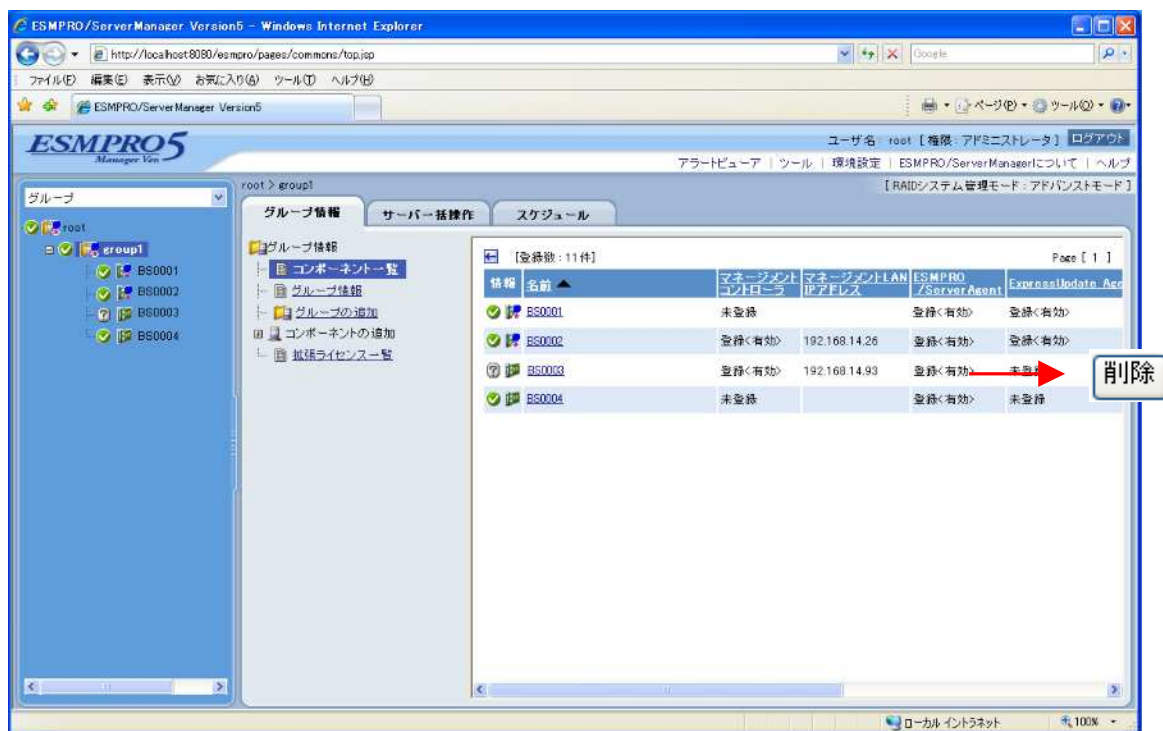


図 5 コンポーネント削除

- (5) 「グループ情報」タブの「コンポーネントの追加」から「自動登録」または「手動登録」を選択してください。

< 自動登録の場合 >

1. 検索モードを選択し、再登録したいマシンの OS IP アドレスと BMC IP アドレスの両方を含むネットワークアドレスまた IP アドレス範囲を指定してください。
2. ExpressUpdate 用設定、Universal RAID Utility 用設定、SNMP 用設定、マネージメントコントローラ用設定の検索有効を指定してください。
3. SNMP 用設定の SNMP コミュニティ名、マネージメントコントローラ用設定の認証キーを入力して、「検索」ボタンを選択してください。
4. 登録結果を確認してください。

< 手動登録の場合 >

1. ExpressUpdate 管理用設定、Universal RAID Utility 管理用設定、SNMP 管理用設定とマネージメントコントローラ管理用設定(共通)の管理登録を指定してください。
2. コンポーネント名、OS IP アドレス、SNMP コミュニティ名、認証キー、マネージメントコントローラ管理用設定(LAN)IP アドレス1、サブネットマスク1を入力して、「追加」ボタンを選択してください。
3. 追加されたコンポーネントを選択し「設定」タブの「接続設定」を選択してください。
4. 「接続チェック」ボタンを選択してください。
5. 「接続チェック実行結果」を確認してください。

- (6) コンポーネントを選択し「設定」タブの「サーバ監視設定」を選択し、「編集」ボタンを選択してください。(図 6 サーバ監視設定 参照。)
- (7) 「SNMP による監視」の「サービス無応答時にアラートを登録する」を「有効」、[死活監視] タブの「アラートの抑制」の「リトライ回数」の値に設定してください。
- (8) 「更新」ボタンを選択してください。



図 6 サーバ監視設定

(9) 「監視間隔」を変更する場合は、ESMPRO/ServerManager インストールマシンにて、以下の手順で設定してください。

1. 「スタート」「すべてのプログラム」「ESMPRO」「統合ビューア」よりオペレーションウィンドウを起動してください。
2. オペレーションウィンドウの左ペインに表示されるツリーから、手順(3)で登録したコンポーネントを右クリックしてください。
3. 表示されたポップアップメニューから「監視設定」を選択してください。(図 7 監視設定 参照。)
4. 「監視間隔(分)」を適切な値に設定し、「設定」ボタンを押下してください。
5. 「設定は正常に終了しました。」のメッセージが表示されますので、「OK」ボタンを押下してください。
6. 「閉じる」ボタンを押下して監視設定画面を終了してください。

以下の手順で、所属グループを変更してください。

- (1) 該当するコンポーネントを選択してください。
- (2) 「設定」タブの「接続設定」を選択してください。
- (3) 「編集」ボタンを選択してください。
- (4) 「所属グループ」を置換前の所属グループに変更して、「更新」ボタンを選択してください。

(図 9 所属グループの変更参照。)

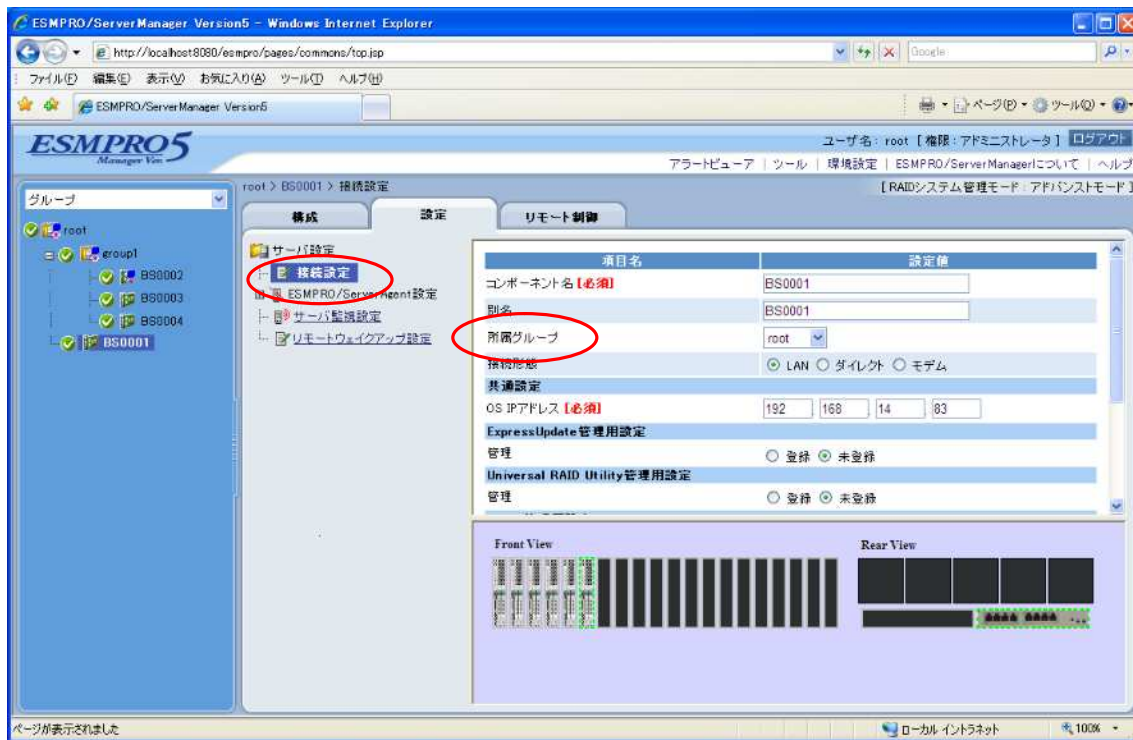


図 9 所属グループの変更